

中野西高等学校 ESD珈琲倶楽部

できる人ができる時にできることを」
～つながりがもたらす経験と知～

中野西高等学校の「ESD 珈琲倶楽部」は、「持続可能な地域づくり」をテーマに、志賀高原での植生回復活動や環境保全、フェアトレードの啓発など、地域資源とつながりを生かした実践的な活動を行っています。生徒の自主性と協働を重視した取り組みは、学校と地域、さらには世界とのつながりを感じさせる学びの場となっています。

志賀高原ABMORIでの植樹活動

同倶楽部の中核を成す活動のひとつが「ABMORI」への参加です。これは生態学者・宮脇昭氏監修の森林再生活動で、スキー場跡地での多様な樹種の植樹を通じて、生態系の回復を目指すものです。生徒たちはモニタリング調査を行い、標高1500mの亜高山帯においても森林が回復しつつある兆候を確認。宮脇方式の有効性をデータで検証しながら、環境回復に貢献しています。

地域資源の活用と脱プラスチックの取り組み

麦ストローの制作も活動の柱の一つです。脱プラスチックを目指し、地元で収穫された麦を素材として、ストロー作りを試みています。これに先立ち、新潟の海岸でのゴミ拾い活動を通じて海洋プラスチック問題の深刻さも学びました。また、高天ヶ原湿原の保全活動で刈り取ったヨシをストロー素材として試すなど、地域資源の利活用にも挑戦しています。

登山道整備と自然保護

岩菅山での登山道整備では、看板の設置、トイレの整備、グリーンロープの設置など、利用者に優しい山づくりと自然保護を両立させる取り組みを進めました。「初心者でも登りやすく、美しい自然を後世に残す」ことを目指したこの活動は、実際の社会課題に対する実践的な学びとなっています。

フェアトレードの推進と啓発

フェアトレードの重要性を知った生徒たちは、コーヒーやチョコレートの販売を通じて、公正な取引の仕組みを広める活動にも取り組んでいます。開発途上国の生産者に対して適正な対価が支払われるよう、校内や地域社会での啓発活動を継続しています。